



よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 ⑤②

～障害総合福祉施設建設予定地への思い～

現在法人が取り組む最大の課題、障害福祉施設を建設する予定地は、戦前からの故松村長次郎氏からの借地（390坪）だった土地である。この土地は1944（昭和19）年、至誠学舎本館と少年寮が陸軍に接収されたため、他所から強制疎開で空いた建物を取得、移築して新たに少年寮を建てた土地である。1948（昭和23）年少年保護事業が終了後、1951（昭和26）年その建物を利用して定員32名の至誠老人ホームが開設された因縁の土地なのである。

至誠学舎は1941（昭和16）年、池袋から戦災を避けるため、立川のこの地に当時の少年保護事業を移転させた。現在の至誠学園、至誠保育園の敷地は主として当時取得した。一方至誠ホーム（高齢事業本部）の敷地は崖沿いの土地が法人所有であとは農地の借地であった。現在の至誠ホームの事業が展開している敷地を確保する過程は、1949（昭和24）年、戦後の法人事業再出発から現在に至るまでの担当者橋本良市・富美子夫妻の不屈の精神と、返済財源として私財をつぎ込み金策に走り回った歴史を刻んでいる。（参考：橋本富美子メモ「至誠ホーム半世紀のあゆみと事業用地の形成」2004.7）

借地を順次購入し、その最後に残った因縁の借地が本計画の予定地なのである。1965（昭和40）年、木造の建物を鉄筋コンクリート造の建物と改築したが、その後行政の指導方針が変わり借地での第一種社会福祉事業経営は原則不可とされた。地主さんに借地権の登記か法人への売却をお願いしたがその交渉は困難を極めた。養護老人ホーム事業終結の大きな理由はそこにあった。

経過は省くが2018年7月、漸くにして当該土地（底地権）を購入でき、そこに法人全体事業として障害総合福祉施設を建設しようとしている。更地になった予定地を車イスから眺め、今98歳となった橋本富美子は目を潤ませ、「漸くね」と呟いたのである。

理事長 橋本正明



旧養護本館 その後ケアプラザ棟
玄関脇に敬老の日に咲く銀木犀が繁る



底地権を購入し、更地となっている予定地

事業本部長メッセージ

「地域における公益的な取組み」が社会福祉法人の責務として位置づけられてから3年ほど経過しました。この間、地域の社会福祉協議会の動きが活発化し、各社会福祉法人においてもその取組み活動を見聞する機会が増えてきました。法人内各事業所においては、すでに地域の実情に応じた関係を築き、長きにわたって公益的な活動に取り組んできた歴史があります。地域のニーズを探り、活動することで地域を創るお手伝いをしてきました。ややもすると埋もれてしまいがちなローカルで貴重な社会福祉実践がまだまだあるように思います。

今年度から新たに法人内に「地域貢献委員会」を設置しました。活動情報の掘り起こしを含め、現状の集約と発信を今年度目標として取り組んでいます。

10月は「笑顔が集う 至誠祭り・バザー」を開催いたします。来園される地域の皆さん、おひとりおひとりに笑顔と感謝の気持ちでこたえられる法人職員でありたいと思います。

（児童事業本部長 石田芳朗）

事業本部情報

児童事業本部

今年度より児童事業本部内部組織として「至誠こどもセンター」が発足しました。法人の中長期計画として掲げられている①児童の健全育成事業への取り組み—児童養護施設の専門性を地域に生かす、②地域家庭支援事業の拠点づくり、の具体的方策として昨年度、1年かけて検討し、開始に至りました。事業としては、①地域の子育て支援事業として、家庭訪問型ボランティアである「ホームスタート」、里子・里親支援、子育てサロン、ショートステイ等、②発達支援事業として、これまで各施設で培ってきた児童発達支援を独自のプログラムとして開発することなど地域支援に関わる多彩の事業を順次展開していく予定です。これまでの児童養護での療育や障害者支援を少しでも多くの地域の方々に提供できるようにすすめてまいりたいと思います。

(至誠こどもセンター所長 島田美喜)

保育事業本部

園庭のない至誠あずま保育園にとって、唯一の屋外部分がグリーンガーデンと命名した人工芝の小スペースです。ここに幅8m70cm高さ2m10cmの壁面があります。日常遊びの時、白い壁より絵があると楽しいだろうな。という思いがあり、壁画制作に取り組みました。先ずは4、5歳児のスケッチ講師門田裕子先生に相談すると、図案化と下書きに快諾を頂きました。保育園の3~5歳児は交代で壁面のお掃除担当を引き受けてくれました。こすっているうちにタワシやスポンジより雑巾でこする方がきれいになることを発見。夢中でこすり、きれいになることを喜ぶ子ども達。子どもたちの偉大なる力に感動しました。8月2日にスケッチ講師による下書き作業が行われました。そして、8月4日日曜日の朝8時30分、あずま保育園に小学1年生~中学1年生までの13名の卒園生が笑顔で集まり、やる気満々で色塗りの開始です。十分な水分補給と交代で休憩を取りながら5時間ほどで完成しました。その後のスイカ割りは大いに盛り上がり、今日初めて会った人も打ち解け合って、あずまの卒園生としての団結力を見せてくれました。皆さまもお近くにお越しの際はお立ち寄りいただき、みんなで仕上げた力作をご覧くださいませと幸いです。

(至誠あずま保育園 霧田清江)



グリーンガーデン

高齢事業本部至誠ホーム

秋を迎え心地良い季節となりました。10月19日(土)は至誠祭り・バザーが開催となります。法人の合同事業として運営します。今年は例年より1週間遅い開催日ですが三連休にはお子達の運動会などと重なることが多く、日程を調整しました。至誠祭りのスタッフはそれぞれの事業本部毎に緑、黄色、ピンクのバンダナを付けます。

当日は10時にバザーが始まります。新品衣料や青空市場、児童・保育の「おやつ販売」や子供服売り場など。テント内の売り場もいっぱいあります。けやき広場の大テント内では①ライヤさんのお店②「まことクラブ保護者会」③「ポディショップのハンドクリームトリートメント」④「訪問治療院レイスの頭皮マッサージ」⑤ジョージ兼路さんと高橋さんのお店⑥GAP衣料品販売 ⑦立川スターレーン(アウリンコ駐車場)祭りとしての運営で、いろいろなイベントを行います。地元の立川錦お囃子連の練り歩き・特設ステージには「たまごさんのダンス」「小太郎さんの大道芸」「歌謡ショー」「マジシャンとーい」そして会場内全体を練り歩く「国分寺連による阿波踊り」午後1時から「立川女子高吹奏楽部」の演奏が予定されています。途中12時30分からお楽しみくじ抽選会があります。終了は午後2時です。どうぞ楽しみにしてください。(高齢事業本部事務局長 金井裕一)

本部事務局だより

毎日のようにマスコミを販わしていた吉本興業の”闇営業”騒動は、現在沈静化している。世間からどんなに言われようと“だんまり”を決め込んだ吉本は、お笑いの老舗だけに“つっこまれてもボケたおす”という“お笑いの基本”は、お手の物かもしれない。そういえば、あれだけ大騒ぎをしていた「2000万円不足問題」も「まこと館だより7月号」で予想したとおり、選挙が終われば誰一人として言う者はない。昔から「人のうわさも75日」と言われるが、ほぼぴったり75日で消えていくところを見ると、吉本の我慢ももう少しである。関西電力の役員らが原発工事に絡んで3億円以上の金品を受け取っていたことが明らかになった。会社のトップが絡んだ大事件である。関西電力でも社員の“コンプライアンス研修”に力を注いでいただろうにこの有様である。昔“反省だけならサルでもする”と言った芸人がいたが、今や、コンプライアンス研修だけなら吉本でも関西電力でもしていたのである。多分、吉本がするコンプライアンス研修なら笑いに満ちた面白いものに違いない。関西電力の役員会でもやってみたら効果があがるかもしれない。(法人事務局長 野島忠幸)

<編集後記>秋の夜長の季節になりました。帰宅時、歩道橋の上からふと空を見上げると思ってもみないくらい大きなお月様と遭遇。ちょっと し・あ・わ・せ な気分を味わいました！<雲>